

# むかしの年末年始 ～長久手～



長久手に生まれ育った方もいれば、ほかの土地から引っ越してきた方もいますが、それぞれみなさんの子どもの頃はどのような年末年始の行事がありましたか。時代が変わり、おせち料理を買う人も増え、伝統行事が失われていく昨今ですが、ここでは長久手の昔の行事を、町史をもとに、ほんの一部ですが紹介します。



## 年越し

大晦日のことをオオツゴモといい、オオツゴモの晩をトシコシなどといいました。オコモリといって氏神の境内にかがり火を焚き、一晩中こもって身を清めて初詣をした人もいました。オコモリをするときは、げんこつを握ったまま帰宅しないと、福が逃げてしまうといわれま



景行天皇社

した。大晦日の晩は8時ごろに家族全員が食卓につき、今年を無事に過ごしたことを祝ってトシコシ膳(オセチ料理)を食べました。その中でも年越し魚は生

魚が手に入らなかったのが塩ジャケでした。一尾丸ごと買うことができたのは経済的に余裕のある家で、シャケのない家ではいわしが年越し魚となりました。またトシコシソバは不運があった年にだけ食べました。そばきりと言って、この年末を限りに不運を「絶ち切る」という意味があるといえます。

## 重ね元日

2月1日をカサネガンジツといいます。長湫では、特別な行事はありませんでしたが、岩作や大草では正月同様に祝うものとされ、仕事を休んでお宮へ参り、1日遊びました。

## フレンズ会員募集

平成30年度フレンズ会員入会及び更新手続きをよろしく願いいたします。

会費：個人会員	1,500円
家族会員	1,000円
法人・グループ会員	15,000円

- \* 公演チケットの割引、先行発売など特典があります。詳細につきましては文化の家までお問い合わせください。
- \* 更新手続きは3/1より随時受付。

## 元旦

夜が明ける前に初詣をします。長湫では氏神サン(景行天皇社)お富士サン(富士浅間社)お寺サン(常照寺)、お薬師サン(豊善院)に詣でました。

初詣から帰ると、いったん寝ます。元旦の朝は、年の若い男が先に起きて、戸を開け、若水を汲むと幸いが多いといわれました。最初の水はチョウケ(手桶)に汲んで、この水で雑煮を煮ます。長久手町辺りの雑煮は、切り餅と真菜を醤油味にし、カツオ節をかけただけの簡素なものでした。



富士浅間社

## 他家訪問

昔は元旦に男が一番に来訪すると幸いが多いといって喜びますが、反対に女が来訪すると縁起が悪いといって嫌いました。それで男の子は近隣各戸を回ってみかんなどをもらって歩き、一方女の方は2日の午後にならないと外へ出ませんでした。

※ (長久手町史 資料編四 民俗・言語より)

※ 長久手町は藩政時代の長久手村、岩作村、北熊村、前熊村からなる。明治以降幾度か合併し村名変更があった町域はすべて「長久手町」で表記する。長湫、岩作、大草、北熊、前熊でも表記する。



常照寺

皆さんの周りに現在まで傳承されている伝統的行事はありますか。

戦後しばらくの間あった行事で、小学生の時元旦に登校し、君が代や“年の初めのためしとて”で知られる「1月1日」(いちげついちじつ)を歌い、儀式が終わると紅白の饅頭が配られ下校したという話がフレンズ会員から聞かれました。

今は時代背景も変わり“元旦登校”は過ぎ去った昔の行事となりました。